

第26回環境工学総合シンポジウム

シンポジウム実行委員会
実行委員長 高野 靖

2016年6月29日から7月1日まで、第26回となる環境工学総合シンポジウムを金沢市にて開催しました。初日は、昨年開業したばかりの北陸新幹線のメンテナンスを行なう JR 西日本白山総合車両所の見学会を開催し、貸し切りバスがほぼ満席となる41名が参加しました。ここでは、環境にやさしい新幹線車両の安全・安定輸送を支えるための保守設備、軌道内に降った雪の融雪装置など、さまざまな工夫が凝らされた設備を見学させていただくことができました。

6月30日と7月1日は会場を金沢歌劇座会議室棟に移し、4つの会場に分かれ、騒音・振動評価・改善技術分野37件、資源循環・廃棄物処理技術分野15件、大気・水環境保全技術分野15件、環境保全型エネルギー技術分野33件の合計100件の一般講演が行なわれました。また、6月30日の特別講演では、最初に(株)日本設計の田島泰様より「日本のスマートシティ動向—都市デザイン分野から見たテクノロジーの可能性—」と題し、今後の都市の発展には「見える化」などさまざまなテクノロジーによる人々の生活行動の変化が必要であることを説明いただきました。また、スマートシティ実現のため、基礎技術を広域展開するまでの間に大きく3つの試練があることなど、ご自身が携わった多数の事例を交えてご紹介いただきました。さらに、(株)富山環境整備の高田雅史様からは「次世代施設園芸 富山拠点の取組みについて」と題して、富山市の焼却廃棄物の最終処分場の跡地にて行なわれているゴミ焼却時の熱エネルギーとICT技術を利用したトマトや花卉栽培事例を紹介いただきました。ここでは、年間を通して安定した収穫を確保し、地域の活性化にも貢献しているとのことでした。

今回は梅雨時にもかかわらず天候に恵まれ、3日間で合計207名の方々に参加いただきました。講演会後は、隣接する金沢21世紀美術館のカフェテリアでの、特別講演の講師の方々と交えた懇親会を開催し、活発な意見交換を行なうこともできました。最後になりましたが、今回のシンポジウムを支えていただいた金沢コンベンションビューロー、補助金をいただいた石川県、金沢市の関係各位に謝意を表し報告を終わらせていただきます。



見学会(JR 西日本白山総合車両所)



講演会会場



懇親会会場